

市長メッセージ

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んでいます。医療従事者の御協力をいただき、土・日の集団接種も始まりました。命を守る活動に御協力下さい。新庁舎建設の住民投票の結果を受け、又、3月12日の外部検討委員会の提言を踏まえ、(案(旧フェリ)-駐車場跡地)での建設はないと最終判断したところです。5月から、庁舎整備に関する新たな外部検討委員会となる「垂水市庁舎等あり方検討委員会」を設置いたしました。学識経験者を2→5名に。公共的団体の代表10名。新たな公募委員5名を加え、合計20名で再スタートしました。又、2元代表制の市議会に於てし「庁舎整備検討特別委員会」が設立されました。現在、現庁舎等の耐震診断を行い、秋頃に結果が示される予定です。庁舎整備のあり方等について、あらゆるご意見を集約しながら進めてまいります。

垂水市長 尾脇雅弥

第14回

たるみず歴史・文化散歩

『中村思無邪』

思無邪という男

垂水市立図書館に一億円を寄付した中村四郎の父、中村思無邪は嘉永五年（一八五二）新城村の戸長をしていた中村平左衛門清徳の三男として生まれました。名前の由来は父が崇拝していた藩主島津斉彬の座右の銘から取っており、「論語」為政の、「心が率直で、偽り飾るところがない、少しも邪悪な考えがない」を意味しています。

明治十年（一八七七）西南戦争が始まって、分隊長として兄弟三人ともに出陣しました。兄二人は田原坂の戦いで

戦死しましたが、思無邪は頭に銃傷を負いながらも、辛うじて命を取り留めました。その後、上京して警視庁に就職しました。

新城村の長として

当時、新城村は戦争の痛手がひどく、思無邪を戸長にと呼び戻すことになりました。二回に亘る説得でようやく成功し、明治十二年（一八八才）

思無邪は第四代戸長となりました。戸長時代の主なる業績は「殖産興業計画の立案と推進（特に落花生・養蚕・煙草・製糖・畜産）」「郷校松尾小学

校を麓から新城の中心地の現在地に移転」などがあります。しかし、明治十六年に任期満了を理由に戸長の職を退き、静養の道を選ぶこととなりました。

その後、明治十七年に隣郷・花岡郷からの要請を受け、花岡郷の戸長となります。花岡での主な業績は「教育の普及」「産業の振興（新城村での実績を活かしたもの）」でした。

ところが明治二十二年町村制公布の折、彼は又新城に呼び戻される事となり、初代村長となりました。

様々な功績

明治二十七年任期満了となり、村長を辞任し、その後、鹿児島新聞社に入社、漢詩担当となりました。漢詩に造詣が深く、「桑山」と号して、県下漢詩界の名指導者となりました。

明治二十九年新聞社を退職

し、肝属郡役所書記となり、大正五年まで二十年間務め、地方自治行政の権威者、大隅地方開発のリーダーとして極めて偉大な功績を残しました。

その後、静かに余生を送り漢詩でも作りたいと強く思っていたところ、又しても新城村民の強い要望を受け、第十代新城村長に就任しました。

しかし、大正八年流行のスペイン風邪に侵され六十八才で逝去しました。彼の一生は、大隅半島の活性化を目指し、後の鹿屋の名物市長「永田良吉」の活躍の下地を作ったと言えます。



▲家族写真（左から2人目が中村思無邪）

（垂水市文化財保護審議員・山田義之）